

全研究の開始が想定されている。当然その源流域にまでさかのぼっての原因究明が想定され、森林分野はどのように対処するのか、迅速な検討が必要ではなからうか。

ウルグァイラウンドの批准にもなって農業研究機関の組織見直しが進められる兆候があり、JIRCASも増大する国内外からの要請に応えるために増員を求めている。その際に林業部門はどのように対処すべきか、森林総研の組織との関係もあり、関係する部局との密接な連絡が必要であると認識している。

図書紹介

樹冠研究の開拓者 (The High Frontier — Exploring the Tropical Rainforest Canopy—, MOFFETT, Mark W., Harvard Univ. Press, 192pp., 1993, 邦貨約 5,200 円)

熱帯雨林の上層を占める樹冠部が下層部と比べて生態学的にあるいは樹木生理学的にどのように異なるかについては興味ある問題がたくさんあるが、近年、実際に樹冠部に接近して（あるいは入って）資料採取、観察、測定などが行われるようになり、そのための施設も世界のあちこちで整備されつつある。しかし、樹冠部についての研究はまだその緒についたばかりといえよう。紹介者自身、10年ほど前カリマントンに滞在した折、樹冠部の昆虫相がどんなものか知りたくて、気球にカメラを装着し、遠隔操作で写真撮影を行い、樹冠上部の様相を垣間見たいと試みたが、装置が揃わぬうちに滞在の期限がきてしまい、悔しい思いをした経験がある。

本書には、樹冠部を調査する際の具体的な方法について詳細に解説されていなければ、具体的なデータが示されているわけでもないが、多くの美しい写真（本文を読まなくても見るだけで楽しい）とともに樹冠部でどんなものが見られるかを平易に述べており、これまでとくに関心を持ったことがない人でもその魅力に引き込まれるような書き方がされている。本書は世界各地に散らばる“樹冠研究者”から直接えた資料をもとに書かれており、いわば最新の情報が盛り込まれているが、あわせて数多くの文献も参照している。巻末には詳しい註がつけられており、もとの文献にあたってさらに知識を深めたい人には便利である。しかし、本書は学術書というよりもかなり高度な啓蒙書といった方が適切と思われる。熱帯雨林の樹冠部に関心をもつ人に一読をお勧めしたい。

(小久保醇)